

令和4年度 学校自己評価表（後期）



【校訓】 敬愛 【学校教育目標】 みんなで伸びる～夢や志を持ち、可能性に挑戦し、主体的に人生を切り拓く生徒の育成～ 【ミッション】 地域に信頼され、地域に貢献する学校

【ビジョン】 ○学校:いのち輝く学校 学校経営の3本柱 ①授業を大切に作る学校 ②明るく元気な学校 ③組織的な学校

○生徒:自ら考え行動する生徒 <<賢く>>知的好奇心にあふれ、学ぶ喜びを実感する生徒 <<強く>>夢や志を持ち、粘り強く努力する生徒 <<正しく>>「時を守り」「場を清め」「礼を正す」礼節のある生徒

○教職員:主体的に学び続ける教職員 <<工夫>>学ぶ喜びを実感できる授業を常に工夫改善し実践する教師 <<信頼>>生徒の心に寄り添い、生徒や保護者の信頼に応えられる教師 <<協働>>組織の一員として協働し、責任と自覚を持つ教師



中期経営目標	短期経営目標	目標達成のための取組	担当部	評価方法・指標 (アンケートは肯定的評価)	目標値	達成値	達成度	中間評価	改善策
↳ 主体的に学び合う授業づくり ↳ 生徒が主体的に学び合い、深い学びにつながる授業づくりを通して、めざす資質・能力を育成する。	①特別支援教育の視点を取り入れ、全ての生徒が「わかる」授業を実践する。 ②「大竹授業スタイル」を定着させ、深い学びにつながる授業づくりを推進する。 ③学びのサイクルによる家庭学習を定着させ、学力の向上を図る。	○「わかった」「できた」という実感をもたせられるよう、日々の授業を工夫する。 ・本時のねらいと振り返りに整合性をもたせ、生徒がねらいに達成するように手立てや工夫を行う。 ・ICT機器を効果的に活用し、生徒の学ぶ意欲を高める。  ○生徒が主体的に学ぶ授業づくりを推進する。 ・授業における「かかわりあい」を充実させ、生徒が意見を述べたり、説明したりする場を設定し、相手に伝える楽しさを実感できるようにする。  ○家庭学習の習慣化と定着の取組を継続的に行う。 ・「毎日の生活・学習ノート」の提出の徹底を図り、定着させる。 ・自学習等試験週間の取組や、生活ノートの週末の自主学習課題を活用し、家庭学習の意欲が高まるような工夫をする。	研究・教務・学年	①学校評価アンケート(生徒)「授業がわかりやすい」85%	85	86.9	102	5	①「授業がわかりやすい」(目標値85, 達成値86.9) 生徒が「わかる」と実感できる授業づくりを教員間で情報を共有しながら進めていく。また、リフレクションシートに質問欄を設け、直接質問できない生徒にとって質問しやすくなるような工夫を今後も行っていく。 ②「授業で『めあて』に対しての『振り返り』をしている」(目標値85, 達成値86.2) 授業の際、めあてを示し、リフレクションシートを活用し、振り返りをする事は定着している。振り返りの質をあげていけるよう、振り返りの視点を設ける等工夫をしていく。 ③「生徒が意欲的に取り組めるようにタブレット等のICT機器を活用した」(目標値80, 達成値72.2) 生徒が「授業がわかりやすい」と感じる理由の一つに「タブレットを活用しているから」とある。生徒が意欲的になるよう、今後もICT機器に関する研修を取り入れていく。 ④「授業では、課題の解決に向けて自分で考え、自分から取り組んだ」(目標値80, 達成値77.2) 各学年、総合的な学習の時間が探究的な学習となるよう取り組んでいる。各教科でも応用し、単元構想シートをもとに、質の高い問い、生徒が主体的になれる課題設定等を工夫し、生徒の課題発見解決能力を高めていきたい。 ⑤「根拠や理由を明確にして説明する」(目標値80, 達成値67) 教員が意識して根拠や理由を問う機会を与える必要がある。生徒が説明できた際には肯定的評価を行い、全体への周知を行う。 ⑥「『大竹授業スタイル』を導入し、少人数やペアの活用をしている。」(目標値90, 達成値100) 教員は意識してペアや少人数の活動を取り入れ、協働的に学ぶよさを実感させたい。 ⑦新学期ごとに生活ノートや切り週間を設定し、提出率をグラフで示した。担任の声かけにより、提出率は上がっている。提出が習慣になるよう、指導していく。 ⑧家庭での学習時間の重要性について毎週末SHRで触れ、個人で目標時間を設定させ、週明けのSHRで目標時間達成者を確認する。(家庭学習スタンプラリー)(1, 2年生) 試験期間中の家庭学習時間(平日3時間休日5時間)(目標値70, 達成値53)テスト計画表に学習時間の累計が色塗りできる場所を追加し、自分の学習時間が視覚的にわかるようにする。試験終了後、目標時間達成者を学年掲示板に掲示し、学習時間に対する意欲を高める。
				②学校評価アンケート(生徒)「授業で『めあて』に対しての『振り返り』をしている85%	85	86.2	101	5	
				③(教員)「生徒が意欲的に取り組めるようにタブレット等のICT機器を活用した」80%	80	72.2	90.3	4	
				④学校評価アンケート(生徒)「授業では、課題の解決に向けて自分で考え、自分から取り組んだ」80%	80	77.2	96.5	4	
				⑤学校評価アンケート(生徒)「根拠や理由を明確にして説明する」80%	80	67	83.8	4	
				⑥(教員)「『大竹授業スタイル』を導入し、少人数やペアの活用をしている。」90%	90	100	111	5	
				⑦毎日の生活・学習ノートの提出率85%	85	91	107	5	
				⑧試験期間中の家庭学習時間(中間30時間, 期末35時間)達成70%	70	31	44.3	2	
↳ 支持的風土のある学校 ↳ 明るく元気な学校づくり	④生徒会活動や特別活動を活性化させるとともに、道徳教育の充実を図り、規範の意識や自己有用感を育成する。 ⑤組織的な生徒指導体制を確立させ、SSWやSC及び関係諸機関と連携を図りながら、不登校生徒の出席率を上げる。	○ 生徒主体の活動やSHRの充実(評価活動等)を図り、教室環境を工夫し、支持的風土のある学級づくりに努める。  ○ 「一丸あいさつ」「やりきり清掃+α」「ユニティカップ」など、自治力を育てる生徒会活動の更なる充実と継承を図る。  ○ 教育相談(ディスカバリーウィーク)を学期に1回、大竹市いじめアンケートを適切な時期に年3回実施し、生徒理解に努め、不登校の未然防止を図る。  ○ 生徒指導対策連絡会で、不登校生徒の情報共有を行い、学級担任、学年教員などで不登校生徒とのつながりを作る。	生徒指導・学年	⑨学校評価アンケート(生徒)「行事や学級活動に一生懸命参加して充実感を感じている」の肯定的評価が90%以上	90	85.1	94.6	4	⑨ 生徒が充実感を感じることができるよう、頑張っている様子を通信で発行したり、教室掲示を工夫する。また、行事等でのクラスの目標やスローガンをしっかり決め意識づけする。今年度も全校生徒が体育館に集まったの集会を持っておらず他学年の様子等も分かっていないので、生徒朝会や学校朝会を体育館で行い、生徒同士の関わりを深めていく。 全体 85.1% 3学年 87.6% 2学年 84.6% 1学年 83.3% ⑩ 授業はもちろん学校生活において、当該学年生徒だけでなく、他学年の生徒もしっかり褒める。気配り、目配り、心配りを大事にする。 全体 72.8% 3学年 64.0% 2学年 74.7% 1学年 79.2% ⑪ 掃除リーダーの育成として、困り感を共有する時間を作る。そして、指示・注意のできるリーダーを育てる。 全体 69.6% 3学年 74.2% 2学年 62.6% 1学年 71.9% ⑫ まずは、教員が廊下等で生徒に対してさわやかなあいさつをし、シールを生徒に渡すことで、生徒たちに挨拶の意識づけをさせる。また、学級委員会の取組のイチガン挨拶で、SSになるまでやり直しをさせるなど取組を徹底する。 全体 42.0% 3学年 44.9% 2学年 35.2% 1学年 45.8% ⑬ 教員自身が自分の言葉で語れるように、教員が本気になって取り組む。また、教科や総合とのつながりを利用して指導する。 全体 93.8% 3学年 96.6% 2学年 92.3% 1学年 92.7% ⑭ 保護者連携はもちろん、部活動顧問、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーとの連携を密にし、教員全体の意識を高めていく。他学年の生徒の状況もしっかり把握する。
				⑩学校評価アンケート(生徒)「自分は学校で、先生や先輩・友だち・後輩からほめられることがある」の肯定的評価が 80%以上	80	72.8	91	4	
				⑪学校評価アンケート(生徒)「私は掃除を頑張っている」の肯定的評価(よくあてはまるのみ)が80%以上	80	69.6	87	4	
				⑫学校評価アンケート(生徒)「私は、あいさつがしっかりできる」の肯定的評価(よくあてはまるのみ)が70%以上	70	42	60	3	
				⑬学校評価アンケート(生徒)「生命尊重の取組や道徳の授業、避難訓練、犯罪防止教室等で命の大切さを学んでいる」の肯定的評価が95%以上	95	93.8	98.7	4	
				⑭ピックアップ生徒15名の中で8名以上の生徒の出席率を上げる。	8	10	125	5	

良好な組織間的関係づくり	小中一貫教育(隣接型)を推進するとともに、地域とともにある「チーム大竹中」を確立させる。	⑥ホワイト大竹中の見直しを図り、主任の機能化と学校運営への参画を推進し、支え合い認め合う教職員集団を形成する。 ⑦合同公開研究会(授業研)を継続し、9年間で育成する資質・能力を見通した学びをつなぐ教育活動を実践する。 ⑧保護者、地域、関係諸機関との連携を強化し、ネットワークを構築し、情報の共有化を図る。	○校務運営会を時間割に位置付け、定例化し、各分掌や学年からの議題や提案について、焦点化した協議を行い、時間設定を明確にした計画的、効率的な運営を図る。 ○年間、月間、週間のスケジュール調整・管理を徹底し、分掌部会、学年会を月に一回は実施する。分掌部会、学年会を月予定に明確に位置づけ、計画的に見通しをもって、円滑に業務を遂行する態勢を構築する。 ○各分掌や学年で分担した業務について、分掌会や学年会で協議を行い、主任・主事が業務内容の進行状況の管理及び連携を行い、学期ごとに自己評価して成果と課題を整理する。 ○主任・主事等のベテラン教員を中心としたコーチングによるOJTを進めるとともに、同僚との協働を大切にす職場風土を醸成し、誇りが持てる大竹中職員文化を創造する。 ○分掌・学年・教科等のデータを系統的に網羅した「大竹中データボックス」をさらに整備し、業務の効率化を図る。また、ホワイト大竹中の見直しを意識してスクラップアンドビルドを重点課題として、校内の取組や業務の優先順位付け、見直しを図る。	全体	⑮学校自己評価アンケート(保護者)「大竹中学校は、教職員が協力し合っで学校や学年の取組を進めている。」 85%	85	73.7	86.7	4	⑮「大竹中学校は、教職員が協力し合っで学校や学年の取組を進めている。」(目標値85、達成値73.7) R3後期77.3→R4前期80.1→R4後期73.7で、前期には改善の傾向にあったが、目標値を11.3%下回った。「協力し合っでいる」場面を実際に見てもらうことが難しいこともあるが、複数で丁寧な対応をしていると実感してもらえていない。 ⑯「PDCAを意識し、組織で取組の改善を図っている。」(目標値90、達成値84.2) R3後期90.5→R4前期76.2→R4後期84.2で、改善の傾向にあるが、昨年度後期には及んでおらず、PDCAサイクルへの意識は十分に向上したとは言えない。 ⑰「大竹中学校は働きやすい職場だと思ふ。」(目標値100、達成値95.2) R3後期85.7→R4前期90.5→R4後期95.2で、昨年度から改善していている。次年度こそ100%を目指したい。 ⑱「子どもと向き合う時間が確保されている。」(目標値85、達成値70) R3後期85.7→R4前期80.0→R4後期70.0でここ数年では低い数値となっており、教職員が余裕のない日々を送っており、生徒への指導や対応が十分ではない場面もあったと思われる。 ⑲「スクラップアンドビルドを行っている。」(目標値85、達成値60.0) R3後期71.4→R4前期61.9→R4後期60.0で、昨年度は後期で改善が図れたが、今年度は昨年度前期を下回り、改善が図れなかった。教員が負担を感じているのは事実であり、どういことが負担なのか、どうやったら負担が軽減できるかを見極める必要がある。 ★総合指標 ②「学校教育に満足している保護者の割合」(目標値90%、達成値83.3%) R3後期「84.3%→R4前期82.3→R4後期83.3であった。前期より微増したが、指標は下回っている。一部の授業や部活動等での教師の対応に不満を感じている保護者、学力の定着や向上に不安を感じている保護者がいる。 【今後の改善策】 (1)通信やHPでタイムリーに情報を発信し、学校や教職員、生徒の様子をしっかり伝わるようにする。また、行事の在り方を工夫したり、フリー参観を設定したりして、保護者の方に学校へ足を運んでいただく機会を設ける。(案内の配付をできるだけ早くする)…⑮ (2)管理職や主任が、PDCAサイクルを回しながら職務を遂行する意識を高め、取組の成果と課題、改善策を共有して次年度の取組を行う。…⑯ (3)管理職面談等による教職員の勤務状況の把握及び心理的負担・ストレスの軽減 管理職は、広い視野で物事を捉え、教職員の勤務状況を把握した上で、適宜面談を行う。業務の遂行状況を確認し、必要に応じて指導助言を行い、教職員のストレスの緩和に努める。…⑰ (4)ホワイト大竹中を風化させない取組 最近、「ホワイト大竹中」という言葉があまり聞かれなくなったという声をすりあげ、風化させないように、新たな実現可能な方策を見出していく。…⑱⑲ (5)教師一人一人が保護者や生徒の思いを真摯に受け止め、自分の言動を振り返り、改善していき姿が伝わるようにする。…総合指標② (6)学校評価の結果を校務運営会議、分掌会や学年会で分析し、成果と課題を整理して、改善策を協議し、それを全教職員で共有する。また、個人でも学級経営や授業の改善を図っていく。
					⑯学校自己評価アンケート(教職員)「PDCAを意識し、組織で取組の改善を図っている。」 90%	90	84.2	93.6	4	
					⑰学校自己評価アンケート(教職員)「大竹中学校は働きやすい職場だと思ふ。」 100%	100	95.2	95.2	4	
					⑱学校自己評価アンケート(教職員)「子どもと向き合う時間が確保されている」85%	85	70	82.3	4	
					⑲学校自己評価アンケート(教職員)「スクラップアンドビルドを行っている」85%	85	60	72.8	3	
総合指標(3力年)			①学校生活に満足している生徒の割合 90% (達成値 84.1% 達成度 93.4%) ②学校教育に満足している保護者の割合 90% (達成値 83.3% 達成度 92.5%)							

アンケート調査 … A:よくあてはまる B:どちらかというあてはまる C:どちらかというあてはまらない D:あてはまらない

数値目標等に対する達成度<肯定的評価の割合> … 5:十分(目標を上回って)達成できている<100%以上> 4:(ほぼ目標どおり)達成できている<80%以上100%未満> 3:概ね達成できている<60%以上80%未満> 2:不十分である<40%以上60%未満> 1:できていない<0%以上40%未満>